



いのりのことば

黒
住
教

御霊前に唱え奉る大祓詞おほはらえのことはは、古来わが国の祭儀に伝承され唱えられてきた祈りのことばです。

下腹から声を出す気持ちで唱えれば、心身共に清浄となり、それが霊様みたまをより高い神様へといざなう祈りとなります。

はじめに、禊祓詞みそぎはらえのことはを唱え、次に大祓詞を唱えるのが順であり、最後に「とおかみえみため祓え給え清め給え」を数度くりかえして終わります。

通常、禊祓詞のみを奉唱する場合は三回、続いて大祓詞を奉唱する場合は、禊祓詞の後の「とおかみえみため…」は唱えず、大祓詞の後に五回唱えます。

禊祓詞

高天原に神留まり坐す神漏岐神漏美命以ち
て皇御祖神伊邪那岐命筑紫日向の橘の
小戸の阿波岐原に御禊祓え給う時に
生坐せる祓戸の大神等諸の枉事罪穢を
祓え給え清め給えと申す事の由を天つ神国つ
神八百萬神等共に天斑駒の耳振り立て
て聞し食せと恐み恐み白す
(とおかみえみため祓え給え清め給え)

大祓詞

高天原に神留まり坐す皇が親神漏岐神漏美
命以ちて八百萬神等を神集えに集え賜い神
議りに議り賜いて我が皇御孫命は豊葦原の
水穂国を安国と平けく知し食せと事依さし奉り
き此く依さし奉りし國中に荒振る神等をば神問
わしに問わし賜い神掃いに掃い賜いて語問いし磐
根樹根立草の片葉をも語止めて天の磐座

放ち天の八重雲を伊頭の千別きに千別き
て天降し依さし奉りき此く依さし奉りし四方の国
中と太倭日高見国を安国と定め奉りて下
つ磐根に宮柱太敷立て高天原に千木高
知りて皇御孫之命の瑞の御殿仕え奉りて天の
御陰日の御陰と隠り坐して安国と平けく知し
食さむ国中に成り出でむ天の益人等が過ち犯
しけむ種種の罪事は天つ罪国つ罪許許太
久の罪出でむ此く出では天つ宮事以ちて

天つ金木を本打ち切り末打断ちて千座の
置座に置き足わして天つ菅麻を本刈断ち末
刈り切りて八針に取辟きて天つ祝詞の太祝
詞事を宣れ此く宣らば天つ神は天の磐門
を押披きて天の八重雲を伊頭の千別きに
千別きて聞し食さむ国つ神は高山の末短山
の末に上り坐して高山の伊褒理短山の伊
褒理を搔き別けて聞し食さむ此く聞し食してば
罪と云う罪は在らじと科戸の風の天の八重

雲を吹き放つ事の如く朝の御霧夕の御霧を
朝風夕風の吹き払う事の如く大津辺に居る
大船を舳解き放ち艦解き放ちて大海原に押
放つ事の如く彼方の繁木が本を焼鎌の敏
鎌以ちて打ち掃う事の如く遺る罪は在らじと
祓え給い清め給う事を高山の末短山の末より
佐久那太理に落多岐つ速川の瀬に坐す瀬
織津比売と云う神大海原に持ち出でなむ此
く持ち出往なば荒潮の潮の八百道の八潮道

の潮の八百会に坐す速開都比売と云う神
持ち加加呑みてむ此く加加呑みてば氣吹戸
に坐す氣吹戸主と云う神根国底之国に氣吹
き放ちてむ此く氣吹放ちてば根国底之国に坐す
速佐須良比売と云う神持ち佐須良い失いて
む此く佐須良い失いてば現身の身にも心
にも罪と云う罪は在らじと祓え給え清め給え
と白す

とおかみえみため祓え給え清め給え

黒住教は、代々神に仕える家に生まれた教祖の黒住宗忠神が敬神崇祖の心篤くして、生きながら神となるの修行を志し、文化十一年（二八一四）冬至の日、お日の出を拜んで神と一体の場に立たれて立教なつた教派神道であります。以来、教祖は多くの悩み苦しめる人を救い導きつつ、生涯に六度も伊勢参宮をするなど、日本古来の神道を民族的伝習の中から、生きた宗教に昇華せしめました。爾来黒住教は、時の孝明天皇の勅願所ともなつた京都神楽岡・宗忠神社ともども国の安泰と世界の大和を祈り続けてきました。

教祖宗忠神生誕の地であり、黒住教立教の霊地である岡山市北区上中野（大元・宗忠神社がご鎮座）が教団の本部でしたが、都市化の波がはげしく、壮厳なお日の出を求めて、昭和四十九年（一九七四）十月、新しい霊地・神道山に大教殿（教団本部）が遷座されました。

黒住教教祖 黒住宗忠神詠

天地の心のありか尋ぬれば
己が心のうちにぞ有りける

心とはほかにはあらず天地の
有無を離れし中の活物

天照らす神の御心人ごころ
ひとつになれば生き通しなり

天地とおないどしなる道の友
かわり給うな萬世までも

限りなき命の道を導かん
重ね給えよ萬世までも

御七力条

- 一、 日々家内心得の事
 - 一、 神国の人に生まれ常に信心なき事
 - 一、 腹を立て物を苦にする事
 - 一、 己が慢心にて人を見下す事
 - 一、 人の悪を見て己れに悪心をます事
 - 一、 無病の時家業おこたりの事
 - 一、 誠の道に入りながら心に誠なき事
 - 一、 日々有り難き事を取り外す事
- 右の条条常に忘るべからず
- 立ち向こう人の心は鏡なり
己が姿を移してやみん
- 恐るべし 恐るべし

道の理

「教祖宗忠大神曰く」

凡そ天地の間に万物生生する其元は皆天照大御神なり 是万物の親神にて 其の御陽気天地に遍満り 一切万物光明温暖の中に生生養育せられて 息む時なし 実に有り難き事なり 各体中に暖気の有るは 日神より受けて具えたる心なり 心はこころと云う義にて 日神の御陽気が凝結りて心と成るなり 人慾を去り 正直に明かなれば 日神と同じ心なり 心

は主人なり 形は家来なり 悟れば心が身を使い 迷えば身が心を使う
形の事を忘れ 日神の日日の御心に任せ 見るも聞くも一々味わい 昼
夜有り難いと嬉しいとに心をよせ 御陽気をいただきて下腹に納め 天地
と共に気を養い 面白く 楽しく 心にたるみ無きように 一心が活き
ると人も活きるなり 生きるが大御神の道 面白きが御神の御心なり
教は天より起り 道は自然と天より顕わるるなり 誠を取外すな 天に任
せよ 我を離れよ 陽気になれ 活物を捉まえよ 古の心も形なし 今
の心も形なし 心のみにして形を忘るる時は 今も神代 神代今日 今日
神代 世の中の事は心程ずつの事なり 心が神になれば即ち神なり

本日、お参り下さいましたことを、みたま霊様もさぞかしお喜びのことと拝察いたします。

教祖宗忠神は、人間はあまてらすおみかみ天照大御神のご分心ぶんしん（分けわ霊みたま）をいただく神の子であると説いて、よりよく生きるための道を教え示されました。神の子として生まれた人間が、この人生という道場において、人の人たる道を生きてきて、やがて形を脱いで一柱ひとはしらの神となるといって教えます。

「かぎ限りなきいのち命の道みちを導みちびかん重かさね給たまえよよろずよ萬世までも」

と教祖宗忠神は詠まれましたが、故人のみたま霊様はご遺族のまもり守護の神かみとして、い生きとお通しとおの道みちを歩あまれることと確信いたします。常にお守りいただいていることに感謝して、敬神崇祖の祈りを捧げる日々をお送り下さい。

ありがとうございます。

黒 住 教 本 部

〒701-1212

岡山市北区尾上神道山

TEL (086)284-2121

FAX (086)284-4756

HP <http://www.kurozumikyo.com/>

大 元 宗 忠 神 社

〒700-0972

岡山市北区上中野1丁目3-10

TEL (086)241-0148

FAX (086)241-7860

HP <http://www.munetada.jp/>